

# Sports Policy for Japan

アスリートの現役中におけるキャリア形成に関する考察

早稲田大学スポーツ科学部 間野研究室



緒言

緒言

調査

提言

・ 2016年という年



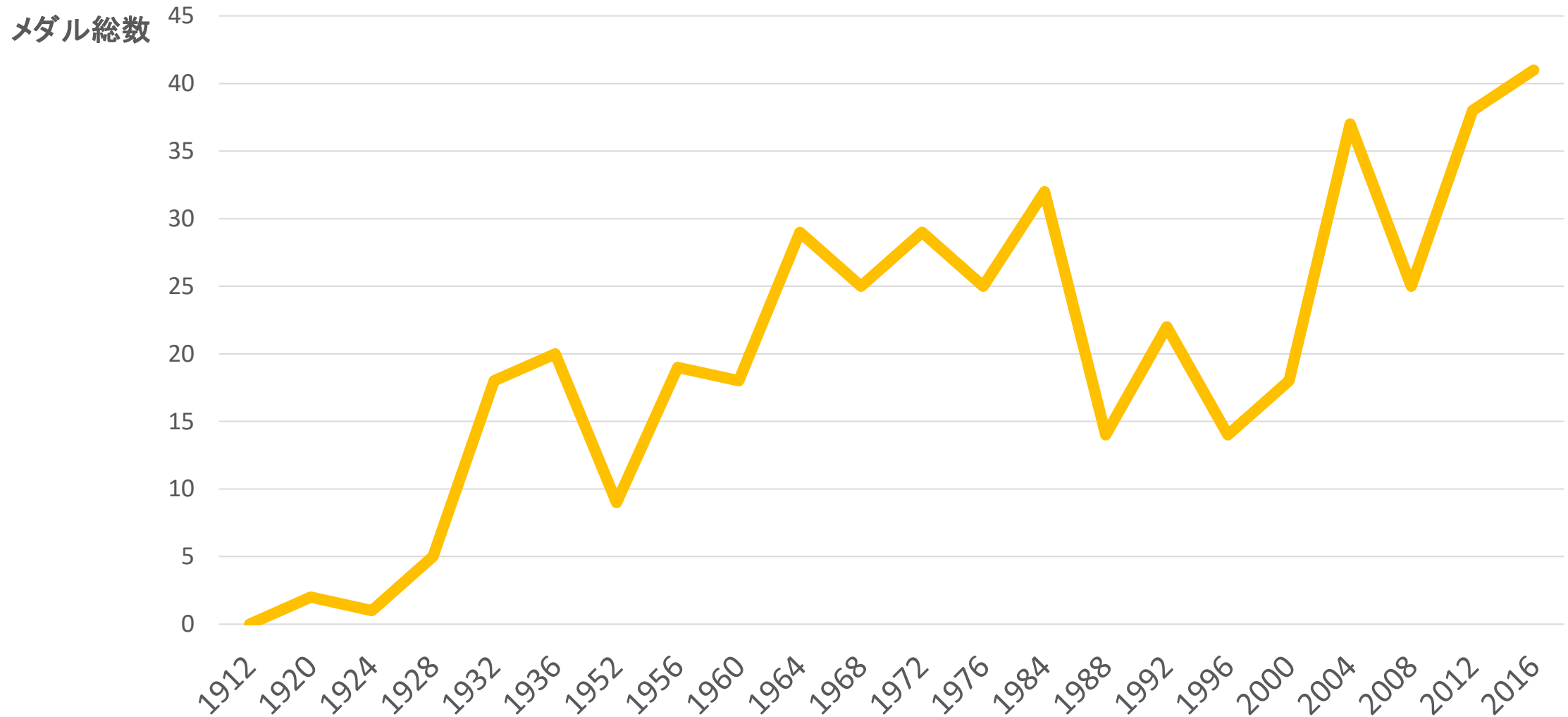
(IOC・JOC、IPC・JPCより)

緒言

調査

提言

## オリンピックにおける日本のメダル獲得数



緒言

調査

提言

- 一方で、  
「トップアスリートのセカンドキャリア、  
競技力向上という成果の反面、大きく顕在化してきた課題」

「引退したアスリートが現役時代に競技力向上のためにスポーツに専心したがゆえに、引退後の生活への適応に困難が生じてしまう、という(中略)社会問題」

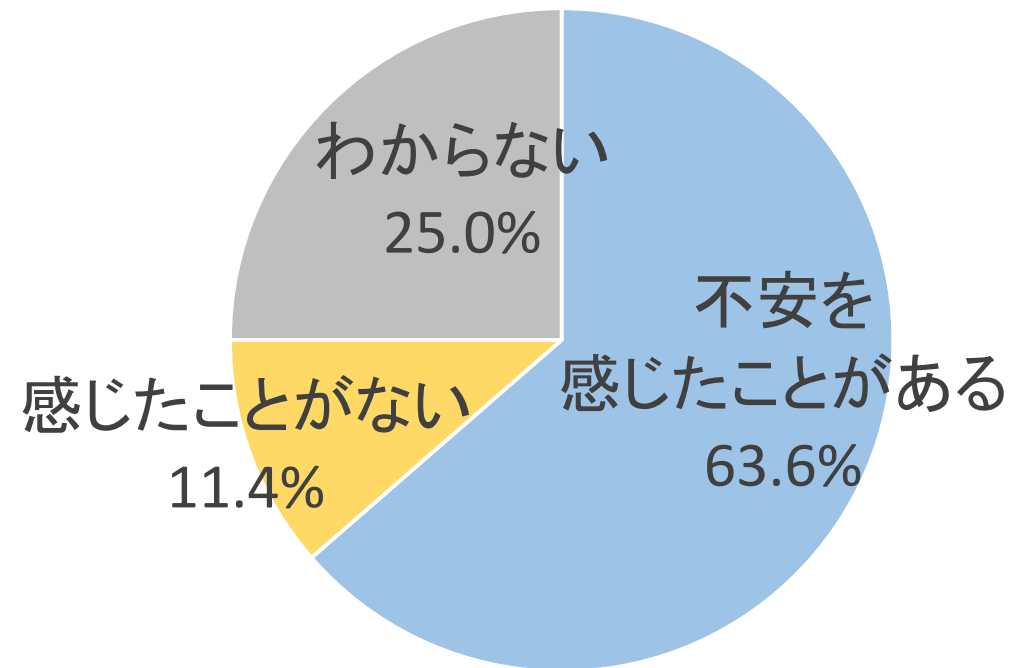
吉田ら(2007)

緒言

調査

提言

引退後のキャリアについて不安を感じたことがありますか。  
(ロンドン五輪に出場した女性アスリート)



(n=132)

小笠原ら、2014

緒言

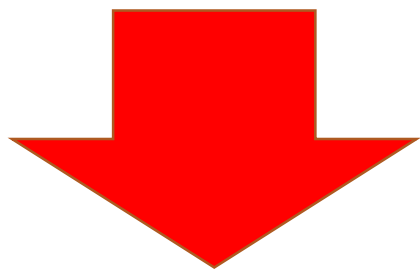
調査

提言

・今井メロ(元プロスノーボード選手)

2006年トリノ冬季五輪日本代表  
当時月収は約300万円

引退後



定職に就くことができず

2011年生活保護を受けるまで生活が困窮



<http://www.joc.or.jp/games/olympic/torino/sports/snowboard/team/imaimero.html>

緒言

調査

提言

**アスナビ**  
トップアスリートと企業をマッチング

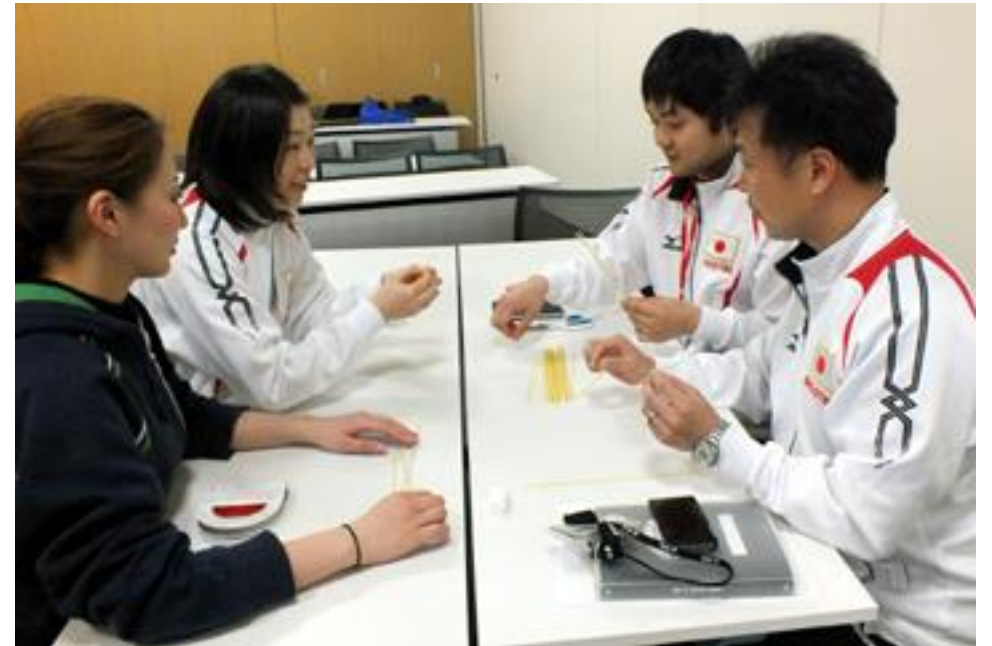


- JOC

エリートアカデミー事業  
キャリアアカデミー事業  
アスナビ

- JSC

調査研究を実施  
スポーツキャリア総合ポータル  
アスリート・キャリア・トーク・ジャパン 2016



JOC HP より



緒言

調査

提言

一方で、

デュアルキャリアの有効性が論じられている

デュアルキャリアとは

『エリートスポーツと学業』、若しくは

『エリートスポーツと仕事』という二つのキャリアを背負っている状況

(EUガイドライン2012)



調査

緒言

調査

提言

## 目的

- デュアルキャリアの有効性を明らかにする
- 日本において「デュアルキャリア」という考え方を根付かせるための方法を検討する

緒言

調査

提言

• セカンドキャリア

スポーツキャリア

セカンドキャリア

• デュアルキャリア

スポーツキャリア

デュアルキャリア

緒言

調査

提言

## デュアルキャリアの有効性

- ① アスリートの総合的な人間形成／キャリア形成／自己実現
- ② 転換可能な応用スキル／能力の習得
- ③ 競技への集中力、モチベーション、コミットメントの向上
- ④ 競技引退後の可能性の拡大

(EUガイドライン2012 JSC,2014)

緒言

調査

提言



・バスケットボール選手  
・公認会計士

岡田 優介さん

[/https://careeful.com/public/pc/article/140808](https://careeful.com/public/pc/article/140808)

## 実例①

岡田優介 バスケットボール選手

大学3年時に公認会計士を目指す(5年後取得)

2007年 トヨタ自動車とプロ契約

2013年 日本バスケットボール選手会の初代会長となる

緒言

調査

提言

## 実例②

坂田淳二 アイスホッケー選手



<http://hpl.sfc.keio.ac.jp/ericsson/>

1992年 コクド入社

2003年 海外でプレー中のオフシーズンに日本で  
スポーツマーケティング会社で働く

2007年 引退後アイスホッケーのコーチの傍ら3つの会社で働く

緒言

調査

提言

	機関名・システム名	対象
オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ National Atelete Carrer and Education (NACE)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>大学入学前</u>から卒業まで支援</li> <li>▪ 世界8位以内の対象者(約700名)</li> </ul>
ニュージーランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ High Performance Sports New Zealand (HPSNZ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>学生から</u>シニアのアスリートまで広く</li> <li>▪ HPSNZのターゲットスポーツ</li> </ul>
フランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ INSEP (国立スポーツ体育研究所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>オリンピックレベルの青少年</u></li> <li>⇒16歳～18歳のアスリート</li> </ul>
アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ National Collegiate Athletic Association</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <u>大学生</u>、23種類の競技</li> </ul>
ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 連邦教育研究省 (BMBF)</li> <li>▪ 連邦職業教育研究所 (BiBB)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 六年間の基本学校を終了した子供</li> <li>⇒ <u>日本で言う中学生・高校生</u></li> </ul>
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ JOC</li> <li>▪ JSC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ナショナルチームに所属するトップアスリート</li> </ul>

(JSC 2014 他)



緒言

調査

提言

## (1) キャリア形成を始める時期

「『小学生、中学生、高校生の時期』が、スポーツキャリア形成支援にとって『一番重要な時期』であることは間違いない」

(JSC、2015)

## (2) アスリートに影響を与える因子

- 競技を始めるきっかけ
- 競技の継続
- 進学先の決定

アスリートのキャリア形成に対する保護者や指導者の影響が大きい

- 保護者や指導者をはじめとするアスリートを取り巻くすべての関係者がアスリートのキャリアや人生としてのキャリアについて理解を深めていく必要性

(JSC,2014)

緒言

調査

提言

## 指導者を選んだ理由

- ①資格によって画一した水準を保証できる
- ②指導者からの波及効果を期待できる
- ③スポーツに偏った指導がなくなる

緒言

調査

提言

## 追調査

### (1)指導者資格カリキュラムの現状

#### 日本体育協会指導者資格

指導者の役割Ⅰ	スポーツ指導者とは
	スポーツ指導者の倫理
	指導者の心構え・視点
	世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
指導者の役割Ⅱ	プレーヤーと指導者の望ましい関係
	ミーティングの方法
	世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割

(日本体育協会共通科目Ⅰ・Ⅲより抜粋)

緒言

調査

提言

## (1)指導者資格カリキュラムの現状

### ・グッドコーチに向けた「7つの提言」

- 1.暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。
- 2.自らの「人間力」を高めましょう。
- 3.常に学び続けましょう。
- 4.プレーヤーのことを最優先に考えましょう。
- 5.自立したプレーヤーを育てましょう。
- 6.社会に開かれたコーチングに努めましょう。
- 7.コーチの社会的信頼を高めましょう。

(コーチング推進コンソーシアム、2015)

An orange arrow pointing to the right, with a white arrowhead on the left side. The text "提言" is centered within the arrow.

提言

緒言

調査

提言

## 提言

提言先：日本体育協会

提言内容：

日本体育協会の指導者資格のカリキュラム「指導者の役割」

の中に「選手のキャリア形成への理解」を盛り込み、

指導者がアスリートに対して「引退後を見据えて競技以外のこと

に取り組む理解を促す」指導ができるようにする。

また、資格を保持するための研修会で同様の内容を行うようにする。

緒言

調査

提言



公益財団法人

日本体育協会

・なぜ日体協の資格なのか？

・幅広い競技を網羅

多くの種目の資格の基盤となっている

・国体指導者への取得義務



緒言

調査

提言

## 日体協公認スポーツ指導者資格の種類

- ・スポーツ指導基礎資格
  - ・**競技別指導者資格**
  - ・フィットネス資格
  - ・メディカル・コンディショニング資格
  - ・マネジメント資格
  - ・少年団資格
- ・上級コーチ
  - ・コーチ
  - ・上級指導員
  - ・指導員
  - ・上級教師
  - ・教師

緒言

調査

提言

# カリキュラム

資格	対象となるアスリート	内容
上級コーチ	ナショナルレベル	デュアルキャリアの有効性
コーチ	都道府県レベル	現状把握と指導者によるキャリア理解
上級指導者	地域レベル	アスリートキャリアの特殊性



指導員



上級指導員



コーチ



上級コーチ

## <参考文献>

- コーチング推進コンソーシアム(2015)新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて～グッドコーチに向けた「7つの提言」
- 笹川スポーツ財団(2015)オリンピックのキャリアに関する実態調査報告書
- 日本スポーツ振興センター(2014)デュアルキャリアに関する調査研究報告書,p.20,p.30-31
- 日本スポーツ振興センター(2015)「キャリアデザイン形成支援プログラム」における「スポーツキャリア形成支援体制の整備に関する実践研究」
- 吉田幸司ら(2007)トップアスリートのセカンドキャリア構築に関する検討(第2報)海外先行事例を中心に
- European Commission. EU Guidelines on Dual Careers of Athletes: Recommended Policy Actions in Support of Dual Careers in High-Performance Sport. 2012
- Kitrina Douglas, David Carless. The performance environment: A study of the personal, lifestyle, and environmental factors that affect sporting performance. UK Sport. 2006.
- Working Group in United States Olympic Committee. Recommendations to the USOC Board of Directors. 2012.
- JOC HP大会別日本代表選手 入賞者一覧 <http://www.joc.or.jp/games/olympic/winnerslist.html>
- デイリースポーツ(2012) <http://www.daily.co.jp/newsflash/gossip/2012/09/21/0005394957.shtml>
- スポーツニッポン(2012) <http://www.sponichi.co.jp/sports/news/2012/09/15/kiji/K20120915004114560.html>
- JSCキャリア総合ポータル: ロールモデル紹介: 岡田優介選手: <http://www.jpnsport.go.jp/Portals/0/sport-career/introduce/case02.html>
- 小笠原悦子ら(2013)女性アスリート戦略的強化支援方策レポート
- 日本体育協会HP:資格を取りたい! :カリキュラム<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/203/Default.aspx>